

会報 第163号
発行日 平成30年4月1日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

V.G 概輪だより

わがまち紹介

桜の通り抜けのまち 大阪造幣局・造幣博物館

桜の開花が始まった、3月22日に大阪造幣局本局・造幣博物館を見学しました。造幣局の中は、スタップの山口さんが丁寧に説明して頂きました。造幣博物館の方は、各ブースのスタップの方にお聞きし丁寧に説明をして頂き、有難う御座いました。
大阪市北区天満
大川を挟んで上町台地の北に位置する天満は、天満砂堆と呼ばれる微高地の南端にあたり、淀川が氾濫しても水没を免れる平地として古い歴史をもっている。現在は大阪天満宮の摂社となつている大將軍社は、白雉3年(652年)に遷都された難波長柄寺高宮の鎮護社として創建された神社です。延喜元年(901年)に菅原道真が大將軍社を参拝し、のちに天満宮となった。

大阪造幣局
造幣局は、近代国家としての貨幣制度の確立を図るため、明治新政府によって大阪の現在地に創設され、明治4年4月4日に創業式を行いました。このように、造幣局は明治初年における欧米文化移植の先駆者として、我が国の近代工業及び文化の興隆に重要な役割を果たした。その頃我が国では、機械力を利用して行う生産工業が発達していなかったため、大型の機械設備は輸入するとしても、貨幣製造に必要な各種の機材の多くは自給自足するよりほかなかったため、硫酸、ソーダ、石炭ガス、コークスの製造や電信・電話などの設備並びに天秤、時計などの諸機械の製作をすべて局内で行っていました。また事務面でも自製インクを使い、我が国はじめての複式簿記を採用し、さらに風俗面では、断髪、魔刀、洋服の着用などを率先して実行していました。

このように、造幣局は明治初年における欧米文化移植の先駆者として、我が国の近代工業及び文化の興隆に重要な役割を果たした。その後、造幣局は、貨幣の製造のほか、時代の要請にこたえて勳章・褒章及び金・銀物の分析及び試験、貴金属地金の精製、貴金属製品の品位証明(ホルマーク)などの事業も行ってまいりました。平成15年4月1日から、独立行政法人造幣局となりました。

たしたので、大阪市が今日我が国商工業の中心として隆盛を見るようになったのも、造幣局に負うところが少なくないといわれています。その後、造幣局は、貨幣の製造のほか、時代の要請にこたえて勳章・褒章及び金・銀物の分析及び試験、貴金属地金の精製、貴金属製品の品位証明(ホルマーク)などの事業も行ってまいりました。平成15年4月1日から、独立行政法人造幣局となりました。

昭和8年竣工、旧造幣寮の正面玄関を移築して作られた建物で重要文化財にも指定された大阪最古の建築物。内観をリノベーションして平成25年(2013年)4月にオープンしました。明治天皇記念館としても使用され、入口には当時の金庫も展示されています。
旧造幣寮鑄造所正面玄関
は、造幣寮(現：造幣局)の金銀貨幣鑄造所の正面玄関を移築保存した建築物です。
国指定の重要文化財。隣接する泉布観とともに、現存の近代建築としては、日本でも最も古いもののひとつです。
泉布観(せんぷかん)
明治4年(1871年)に造幣寮(現在の造幣局)の応接所として建設された。設計者はトーマス・ウオートルズ。完成の翌年に明治天皇が行幸し、貨幣を意味する「泉布」と館を意味する「観」とを意味する「泉布」と命名された。明治天皇自身も3回も訪れ、皇族や外国の要人を数多く迎えた。

造幣博物館
造幣博物館は、明治4年(1911年)に火力発電所として建てられた建物で、造幣局構内に残る唯一の明治時代のレンガ造りの西洋風建物です。昭和44年(1969年)に建物の保存を図り、当局が保



造幣局見学前の説明風景



旧正門内にあるガス燈

<p>2018年4月度行事予定 VG概輪年次総会開催 “会員親睦会”</p> <p>月 日:2018年4月19日(木) 総会会場:真上公民館 10:00~11:30 親睦会場:富美や 12:00から その他:1)雨天決行 2)詳細は別途配布資料を参照下さい。</p>	<p>2018年5月度行事予定 自然と歴史文化が調和しやすらぎのまち 石清水八幡宮昇殿参拝・見学</p> <p>月 日:2018年5月17日(木) 集合:京阪八幡市駅 改札出口 9:20 内容:石清水八幡宮参拝・散策 その他:1)雨天決行 2)詳細は別途配布資料を参照下さい。</p>
--	---